

令和 4 年度 墨田区立第三寺島小学校 経営報告書

令和 5 年 3 月 1 0 日

学 校 目 標	○じょうぶな体をつくる子 ○おたがいを大切にできる子 ○すすんで学ぶ子 ○人のためにはたらける子
目 指 す 学 校 像	子供が主役の学校
目 指 す 子 供 像	<p>○じょうぶな体をつくる子 →運動が好きな子 健康のため自己管理ができる子 自他の命を大切にする学習</p> <p>○すすんで学ぶ子 →分かる、楽しい授業、外部や地域の講師と連携した体験的な授業 本物から学ぶ</p> <p>○おたがいを大切にできる子 →いじめ・暴力を許さない 規範意識の醸成と実践 思いやり勇気のある子</p> <p>○人のためにはたらける子 →他の幸せを自分の幸せにできる子</p>
目 指 す 教 師 像	<p>教職員の基本姿勢 「子供が主役の学校」</p> <p>○保護者と共に、児童の成長を喜び合う。明るさ温かさを根底にしながら、指導すべき点は明確に伝わるよう、身に付くよう温かく、寄り添って指導する。(体罰・暴言はあってはならない。)</p> <p>○子供の思いを受け止め、良いことと悪いことを明確に教える。勇気づける指導を進める。</p> <p>○特別支援教育への理解を進め、一人一人の良さを伸ばし、考える・分かる・できる喜びのある授業・教育活動を追求し、日々研究・研修に努める。</p> <p>○保護者・地域と温かい関係を築き、共によりよい学習環境・居場所を創造する。</p> <p>○いじめを絶対に許さず、偏見や差別をなくす人権尊重教育の徹底に努める。(呼名・言葉遣い) ○教師自身が児童の手本となる。率先垂範 凡事徹底 明るく温かく笑顔で。</p>

1 自己評価結果と学校関係者評価の状況

項目	評価項目	自己評価		学校関係者評価	
		達成状況	改善策	自己評価について	改善策について
各教科等指導	学校は、確かな学力を育てるための、分かりやすい授業を実施しているか。	A	教員の授業力向上を目指し、主体的、対話的、深い学びに向けた授業改善「本物から学ぶ教育の充実」を今まで以上に実践し、わかる・できる・定着する、楽しい授業の充実を図る。	A	A
	学校は、特別な支援を必要とする子供に対しての、組織的な支援等を行っているか。	B	毎月の特別支援委員会において、合理的配慮のもと体制を整え、一人一人にあった支援の充実に努める。また、拠点校の強みを活かし、まなびの担任との連携を強化する。	A	A
	学校は、社会的自立に向けた進路指導・キャリア教育・相談活動等に取り組む。	A	児童が夢をもてるような体験的な活動（本物から学ぶ教育）を多く取り入れ、将来への希望を抱けるよう努める。	A	A
	学校は、教員の指導力・授業力の向上のための、組織的な取組等を行う。	B	授業改善計画に則した校内研究授業を年 4 回実施する。また、年間 2 回の管理職による授業観察、OJT チームによる授業交流や、三寺未来塾を実施する。主幹・主任教諭の講師による研修を行う。	A	A
	学校関係者評価委員会の意見等	学校公開等で授業の様子を参観した。児童が落ち着いて学習していて安心した。			

様式 4

項目	評価項目	自己評価		学校関係者評価	
		達成状況	改善策	自己評価について	改善策について
生活指導等	学校は、いじめ、不登校等の予防や解決に向けた組織的な取組等を行っているか。	B	いじめ不登校対策委員会を中心に、いじめ0を目指す。不登校についてもサポート学級等と連携を図り、解決をめざす。いじめ・不登校研修会を、専門家を招き実施する。	A	A
	学校は、基本的な生活・社会習慣、人間関係づくりのための心の教育等に取り組んでいるか。	B	本校の教育目標「人のために働ける子」を目指し、互いに認め合い励まし合える関係ができるようにする。あいさつについての指導徹底し、気持ちの良い挨拶ができるよう指導の充実を図る。	A	A
	学校は、危機回避能力の育成や子供の安全を確保するための取組等を行う。	A	今年度新たに、専門家を招き防犯教育研修を行い、不審者対策を充実させた。また、地域の防災訓練のリーダーによる出前授業を行った。今後は、自分事として捉えられるような取組を行っていく。	A	A
	学校は、子供や保護者からの意見や要望を把握し、教育活動の点検や改善に役立っているか。	B	今年度のアンケートでは、肯定的な意見が96%、否定的な意見が4.5%であった。新しい生活様式になり、戸惑いも多く見られたこともあった。そこで次年度は、教育活動をより理解していただけるよう、お便りやホームページ等でお知らせしていく。	B	A
	学校関係者評価委員会の意見等	学校評価の回収率を上げる工夫が必要。家庭が学校教育に関心をもてるようにしたい。			
項目	評価項目	自己評価		学校関係者評価	
		達成状況	改善策	自己評価について	改善策について
学校の管理運営	学校は、経営方針に基づいた、組織的な教育活動・学校運営等を行っているか。	B	今年度より経営運営部を立ち上げ、管理職・主幹主任教諭による校務改善を行った。次年度は内容を精選し、教育活動の更なる活性化に取り組む。またその中で、若手教員に対し様々な校務にチャレンジできる環境を作る。	A	A
	学校は、子供の実態に合わせた教育目標設定及び学校評価等を適切に行っているか。	B	教師の自己申告の目標に指針となる数値を入れ、どの程度実施できたかを見える化できるようにする。その中で子供の実態に即し、改善したり修正したりできるようにする。	A	A
	学校には、適切な教育活動が行える教育環境・設備等を整えているか。	A	ICTの活用研修等により、授業改善が進んだ。今後は「本物から学ぶ教育」の充実が図れる教育環境に力を入れ、児童の情緒面の指導に活かす。	A	A
	学校関係者評価委員会の意見等	ピオトープやワクワクモーモースクール等、体験的な学習を多く行うことができた。児童の主体的な学びを推進することができている。			

項目	評価項目	自己評価		学校関係者評価	
		達成状況	改善策	自己評価について	改善策について
家庭・地域連携	学校は、教育方針や日常の教育活動の様子などを工夫して分かりやすく伝える取組等を行っているか。	B	学校公開の中で、様々な教科を参観できるようにする。また「三寺校長日記」等、更にホームページを充実し、学校の様子を保護者や地域に向けて配信し、理解を得る	B	A
	学校は、保護者や地域の理解や協力を得た教育活動を行っているか。	B	今年度、地域の方を招いた出前授業を行い、この地域の良さを活かしたカリキュラム（総合）を行った。引き続き開発していく。	A	A
	学校関係者評価委員会の意見等	学校と保護者との連携は図られていると思うが、保護者が地域のイベント等にも積極的に参加して欲しい。参加することで、もっと密に連携が図れると思う。			

様式 4

2 令和 4 年度学校評価のまとめ

コロナ禍であっても、今できる最善の方法を考え、子供が主役の学校を目指し取り組んだ。今年度は昨年度よりも学年毎に交流を行ったり、地域や保護者の方にお越しただけたりする機会をもつことができた。

次年度もコロナの影響は続くと思われるが、子供たちの為に、出来る最善のことを行っているよう、学校と保護者と地域の連携を図っていきたい。

以上の通り報告いたします。

墨田区立第三寺島小学校 校長 福井 みどり 公印